

令和元年度第4回 鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日時 令和2年2月13日（木） 15時00分～

場所 市教育委員会2階 会議室

出席者 委員13名、関係課・事務局職員6名

欠席者 委員1名

傍聴者 4名

新聞記者 1名

概 要

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 前回会議の概要について、事務局から説明を行いました。

(2) 「鳴門市公立幼稚園のあり方（中間報告案）」について

- ① 前回会議からの加筆・修正点について、事務局から説明を行いました。
- ② 新たに追加した項目について、事務局から説明を行いました。

(3) 意見交換

(会長)

幼稚園が閉園した後の財産処分について、もう少し詳しく伺いたい。

(事務局)

各園によって事情は異なるが、多くの園で耐震化や空調設備導入の際に国庫補助金を活用している。そのような施設を財産処分するとなると、原則として国庫返納等の条件がある。貸し付ける場合にも、基本的に10年以内に国庫補助を活用して行った事業であると制限はある場合が多い。

(会長)

具体的な案も出てきたので、忌憚の無いご意見をお願いします。

(委員)

民間事業者の有する教育・保育資源の活用という文言があるが、具体的なイメージはあるのか。

(事務局)

再編を考えるにあたって、中学校区を一つの単位として考えるとしていたが、中学校区ごとに園児数の偏りがあった。望ましい一定の集団規模の確保を最優先に考えたが、鳴門中学校区と瀬戸中学校については、我々が考える望ましい園児数に達していないという状況があった。本来であれば、そのような園については閉園とするというのが順当な判断であったが、両園については中学校区に一つの公立幼稚園であり、これを閉園とした場合に地域の教育力という観点から影響が大きく、民間の教育力を活用して就学前教育・保育施設として残したいと考えた。

私立教育・保育施設等との連携の中で、施設を維持していく方法などを考えている。

(委員)

具体的によく分かる資料であり、再編については小学校を見据えての配置であるので良いと思う。桑島幼稚園は周辺道路が狭いこともあり、保護者の送迎に問題である。再編後には、園児数が増えることも考えられる。今後についても駐車場確保と安全管理が必要である。

説明を聞いて、再編の必要性和切迫感がよく分かった。「おわりに」の中に、「わたしたち」という言葉があるが、この場合の私たちとは誰のことか。

(事務局)

審議を行っていただいている現時点では、中間報告案の主語は審議会となるが、最終的に答申後に成案となってからは、主語が鳴門市教育委員会になる。

(委員)

教職員の資質向上、魅力向上、勤務環境改善について、どう考えているのか。

(事務局)

先生にとって現在の幼稚園は、厳しい、過酷な勤務環境であると思う。今回の再編による園の集約によって、ベテランと若手がノウハウの伝達ができ、研修もしやすい、やりがいのある職場にしていきたいと考えている。

(委員)

離職の要因を、もっと市でも検討していただき、夢をもってこの職に就いた先生方が離職しなくてもすむようにしていただきたい。「子どもとの関わりが楽しい」「仕事ってすばらしい」と思えるような魅力ある幼稚園にして、優秀な人材の確保もお願いしたい。

(委員)

再編を行うと、地域住民や保護者との関係などはどうしても変化するだろう。他地域の幼稚園に通うようになると、やはり初めはわからないことや意見などを言いにくいなどの問題もある。

PTA 役員を決める話し合いでも、地域内でも未就学児については把握しづらい。地域コミュニティーの拠点として、幼稚園があればつながりができる。

交通当番やスクールバスについても、いろいろと課題がある。

(会長)

現在、幼稚園への通園については、自動車での送り迎えがほとんどであるため、通園のあり方をどうするかということや、交通当番の決め方などについても大きな問題である。

(委員)

現在、一部の幼稚園では、4歳児と5歳児が一緒になる混合学級となっているが、4歳と5歳とは発達段階が全く違う。その子どもたちが一つの学級で生活するようになると、自分たちが思うような活動ができずに困ることが多くあり、子どもの発達・成長のためには、大きな問題である。ただ、地域の方や保護者の中には、そのようなことがなかなか知られていない。説明の機会が必要なのではないか。そのことがわかれば、再編への理解にもつながるのではと思う。

ただ、多くの幼稚園では周辺の道が狭く、再編により送迎の車が増えることになると危険であり、不安は残る。

(委員)

再編後の小学校への入学はどうなるのか。入学にあたっての手続き等についても丁寧な説明が必要ではないか。

また、明神小学校では、再編を機にスクールバス運行を始めたが、今回の幼稚園再編ではどうなるのか。渋滞・混雑が増え、駐車場確保が必要になるのではないか。

地域が広がると、今まで以上にPTA役員をまとめるのは難しいと思う。

小学校目線で見ると、再編により閉園となる幼稚園の土地を、小学校が活用しても良いのか。

園が無くなる場所だけでなく、残るところも様々なことを考える必要があり、不安である。

(事務局)

鳴門市としては、基本的に小学校再編に際してスクールバスを出してきた経緯がある。今回の再編では園区を廃止することとしているが、幼稚園は保護者による送迎を原則としているため、既存のスクールバスは継続する前提だが、新たなスクールバスの運行は考えていない。

(委員)

保育園、こども園と幼稚園、そして小学校の連携協力体制をしっかりとしていかななくてはならない。

また、幼稚園の先生方や保育園の保育士の勤務環境が厳しいという話がよく出る。待遇面や残業等についても改善の余地はあるが、「こんなに楽しい仕事だ」ということが周囲に伝わるように話し合いながら、発信していかなければならない。

(事務局)

保育園、認定こども園、幼稚園の小学校との連携については、中間報告案（や目指す幼稚園像のイメージ図）でもお示ししているように、より一層の連携促進に取り組んでいくこととしている。

(委員)

子どもたちの幸せを望んだ前向きな再編になると信じている。

前回審議会後に5～6園への再編ということが新聞に出たことについては、保護者からも幼稚園に対してとくに質問などはなく、大きな混乱はなかった。しかし、今回は具体的な園名が出るということで、前回とは違い、できるだけ幼稚園現場が説明できるように知らせておかなければと思う。

幼稚園教諭の離職者が鳴門市だけでなく、他の市町でも多いように聞く。1・2年目は苦勞が多く、3年目くらいから仕事分かり、幼稚園教諭として楽しくなってくる。そのような1・2年目の先生の離職を引き止めていくのは管理職の仕事だと思うが、現在では管理職自身も比較的若い先生が多いため、それらの先生方が管理職としての資質を学んでいくことも課題である。

ピンチはチャンスであり、ここを乗り切ったら鳴門市の幼稚園が良くなっていくと思う。そのためには、様々な人の力を借りながら再編を進めていくことが必要であるが、再編が急務であることの認識についても、現場は気持ちがついて行けていない部分がある。幼稚園現場においても全教職員にきちんと説明していかなければならない。

(委員)

子どものために第一に考えることが大切であるのに、多くの保護者が自分の出身園や地域の園が、再編によってどうなるのかということに固執しているように思う。また、先生方が大変なことについても保護者は分かってはいるが、我が子のことになると、先生方の大変さを忘れてわがままを通してしまうことがある。

保護者に対して、子どものことを第一に考えるのであれば再編が必要ということ、同じ保護者の立場から伝えていきたい。

(委員)

今回の再編案については合理的であると思うが、現在、自動車での送迎が一般的であることを考えると、逆転の発想で、中心部に集約するのではなくて、周辺部の環境のいい園を生かすというのも良いのではとも思う。

先生方の数が確保できると、今までできなかったことができるようになったり、子どもにとっても良いことが増えたりすると思う。そして、それぞれの地域の特徴や良さを生かした幼稚園教育を行うことで、市街地から周辺部の園を選択できることにもなる。画一的ではなく、柔軟な選択になれば良いのでは。

(会長)

保護者が自由に園を選択できるようにするというのは、一つの手法である。この度の再編に合わせて園区の設定を廃止することで「この校区だからこの幼稚園に行く」というような今までの常識を変えていく時代になっていく。

(委員)

今日出された再編案は、子どもの人数でも、先生方の負担軽減の観点からも、理にかなったものであると思う。

ただ、精華幼稚園を例に挙げると、再編後は林崎小学校と里浦小学校に進学することになる。兄弟姉妹のこともあり、運動会などの行事の日程が、同じ日でも違う日でも困ることになる。

また、小学校入学時の児童数の偏りにもつながるようにも思う。

交通立哨当番にしても、自分の子どもが通らないのに立哨することになったり、PTA 活動についても不公平感が出る可能性もある。今までのことが普通でなくなり、再編のメリット・デメリットを感じる。

(委員)

幼稚園を再編することが合理的であり、その理由も理解できるが、幼稚園から複数の小学校へ上がる時に入学者数の偏りができ、小学校の再編にもつながっていく恐れがある。また、再編後には、1園あたりの園児数が増えることになるが、送迎時の混雑が容易に想像できる。

再編を行う時期が急であり、再編までの時間が短く、保護者や教員の理解を得られるのか心配である。

(委員)

再編後の地図が資料として示されているが、その先に見える小学校、中学校の今後のあり方が心配され、どこかに集約されるのではないかと容易に想像できる。

子どもたちにとって良い環境とは何かを考えると、一定数の人数は必要だが、子どもの数に合った園庭の広さや周りの環境も必要である。特定の園に偏りが生じて窮屈になっても困る。

「4・5歳児にとって適切な環境とは何か」、「幼児の学びとは」というようなことを、十分に保護者に伝える機会をもつことが大切であり、市教委としても各園と協働して特色づくりを行うなど、再編の意義や各園の良さをアピールしていかなければ、今後さらに再編を繰り返すことになり、公立幼稚園の淘汰へとつながりかねない。

再編について異論はないが、公立幼稚園が5年後も大丈夫なような、前向きなものになるような取組を続けていかなければならない。

(副会長)

現在の、公立幼稚園の子ども数や教員の状況を考えると、再編案に示されている園数や園については、受け入れざるを得ない。再編後を見据えて、具体的な手続きをどう進めていくかを、現場と教育委員会が協力してしっかりと考え準備をしていくことが大切。

「9 おわりに」に示してあることを実現できるように、市民に対する約束として取り組んでいかなければならない。

再編によって子どもの学びと、教員の職場環境を確実に充実させていかなければならない。

また、教職員構成のアンバランスをつなぐための方策として、現在各園に配置されている再任用教員が発言力をもって取り組むことも有効であると思う。

(会長)

今回の幼稚園再編は、個々の考え方の違いが尊重され、大切にされる徳島の良さを生かすことができるチャンスである。

臨時教員が学級担任をしなければいけないなど、再編せざるを得ないイレギュラーな状況が既に常態化している。再編を受け入れ、「9 おわりに」に書いたことを実現するチャンスと考え、知恵を働かせて進めていく。園が無くなるころは大変であるが、それでも建設的な条件や意見を出すなどして、前向きに捉えて進めていく必要がある。再編にもいろいろ課題はあるが、ベターの選択肢であり、チャンスとして捉えて進めていくべきである。

(委員)

市外から子どもが来るような幼稚園、選ばれる幼稚園を目指し、いろいろなアイデアを出しながら進めていかなければならない。

(会長)

教員が働きやすい幼稚園など、魅力や特色を打ち出すことで、子どもにとっても良い幼稚園につながる。市民と一緒に考えて、進めていく必要がある。

(委員)

今後の市立保育所の設置場所がまだ不確定であるが、決まった時点で市内の全就学前教育・保育施設が本腰を入れて考えなければ、これらの施設のさらなる淘汰が進むことにもなりかねない。

(会長)

教育委員会には、この度の再編を機に、全国的にも誇れるような、教員が働きやすく、子どもたちをしっかりと見ることのできる幼稚園を作る気概を持ってほしい。教員が良ければ子どもたちが育つと言われている。子どもたち目線の良い幼稚園を目指し、教員にとっても子どもにとっても良い幼稚園となるよう、魅力ある鳴門市の幼稚園にしてもらいたい。

今日の審議でのご意見を基にして、事務局は中間報告案を作成してください。それを私のほうで確認をさせていただき承認したいと思う。

それをもって「中間報告」とし、市議会や地域説明会での資料として説明し、しっかりと意見を聞いていただきたい。

今後については、中間報告についての市議会や地域のご意見を踏まえて、再度審議を進めていくことになる。

4. その他

第5回の審議会日程について

市議会や地域のご意見を踏まえて修正案を作成し、その内容について5月中旬頃に開催することを確認しました。

5. 閉会